第３７号

恵友

医療法人恵友会　霧ヶ丘つだ病院
ほっとホーム霧ヶ丘
恵友会デイサービスセンター
訪問看護・ヘルパー
ケアプランステーション

今号の恵友

・第22回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 in 福井
・第9回 北九州下関睡眠呼吸障害研究会
・第17回 北九州呼吸ケア研究会
・第69回 日本呼吸器・結核病学会 九州支部秋季学術講演会
・喘息・COPD講演(鳥取)
・呼吸器相談会を開催しています
・第28回 バスハイク報告
・病棟クリスマス会
・恵友会の忘年会
・連携室だより～禁煙外来について～
・トピック

『足立山の初雪化粧 』

当院の屋上庭園から一望できる足立山の初雪姿を撮影したもの。
その昔、和気清麻呂公の痛めた足が立った地という由来から足立山という名がつき、現在では九州百名山にも指定されています。小倉の街に近いこともあり、夜景が綺麗なスポットとしても知られています。

《 撮影　井田 章博 》

第２２回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 in 福井

１１月２３～２４日、福井大学医学部教授 石崎武志先生が会長を務められ、福井フェニックス・プラザで開催されました。全国から１９００名を超える医療従事者が集結し、日々の診療・看護・リハにおける活動や研究の成果を発表しました。当院からの発表をご紹介いたします。

ワークショップ：認定看護師と多職種連携によるチーム医療の新たな展開
『在宅酸素療法患者を支える慢性呼吸器疾患認定看護師の活動』　看護師　井本 久紀

【背景】在宅酸素療法を受けておられる患者さんのお宅を病棟勤務の看護師が訪問することにより、入院生活では見えてこない患者さんの生活実態を知ることができます。どのような環境で生活されているのか、ご家族のサポート体制はどうなのかなどを見せていただくことにより、次の入院から退院へ向けての問題点の把握に役立ちます。また、実際に実生活の場で在宅酸素療法や鼻マスク人工呼吸器・吸入薬の指導を行えます。

【慢性呼吸器疾患看護認定看護師がどう関わるか】

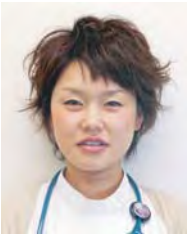
専門性を持った看護師として、在宅患者さんの情報（病気の状態や生活環境）を医師を含めた多職種と共有することで、院内～在宅の連携の要としての役割を担っていくとともに、スタッフ教育や慢性呼吸器疾患の看護外来など今後の活動へ広げていきたいと考えています。

ワークショップ：訪問看護師と病棟看護師の連携
『ケアマネジャーの立場から』　ケアマネジャー　加賀美 由旗

当院では、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーが参加する「情報交換会」を毎週１回開催し入院患者さんに対する各分野の情報を検討しています。在宅部門を担うケアマネジャーは、入院から在宅へ移行する呼吸器疾患患者さんの退院時カンファレンスの調整を行います。そこでは病院スタッフと在宅スタッフ（訪問看護師、ヘルパー、デイサービス看護師等）に参加してもらうことで、訪問看護師と病棟看護師が直接意見交換をし、ケアスタッフ全員が情報を共有できています。

また、北九州市における訪問看護や介護サービスを開始する際の医師とケアマネジャーの連携には、北九州市リハビリテーション支援体制検討委員会が作成した「連携シート」をベースに、詳細な情報を整理・共有してサービス提供を行う方法もとられています。今後、サービスや施設も多様化・複雑化していく中で２４時間切れ目のない充実したケアを提供するためには、地域の医療・介護連携のさらなる強化が求められます。

『高齢者の吸入療法におけるインチェックの有用性』　看護師　井上 真実



入院中で粉剤（ＤＰＩ）吸入療法中のＣＯＰＤ患者さん３４人に対し、インチェックを用いて吸入流速と吸入時間を同時に測定し評価することが吸入指導に役立つかを検討しました。

インチェックを使用し、声掛け無しでの測定と声掛け有り（①しっかり息を吐いたあとに３秒程かけるつもりで吸ってください②しっかり息を吐いてから吸ってくださいという２パターンの声掛け）での測定を行い変化を比較しました。

結果として吸入流速・吸入時間不良の１４人のうち、１１人に対して①の声掛けによる改善はみられませんでしたが、②の声掛けでは６人に改善がみられました。ＣＯＰＤ患者さんは高齢の方が多く、インチェックでの定期的な評価は、肺機能が落ちているため吸入のスピードが遅かったり、吸入する時間が適切でない患者さんの指導に役立つことがわかりました。

『ＣＯＰＤ患者における６分間踏み台昇降テスト（第３報）』　理学療法士　進藤 崇史

６分間歩行テストでは３０ｍの歩行路が必要であり、在宅など小スペースでの運動耐容能テストを行えないことが問題でした。このことから、当院では在宅の患者さんの運動耐容能テストとして、踏み台（１０ｃｍ）を用いた昇降テストを考案しました。

当院で呼吸リハビリテーションを試行中のＣＯＰＤ患者さん１０人に、６分間歩行テストのマニュアルに従って１０日間以内に３回、踏み台（１０ｃｍ）を反復昇降していただきステップ数の統計から相関係数を分析しました。

本研究の結果から、６分間踏み台昇降テストと６分間歩行テストの間には良好な相関と再現性が得られたため、在宅など限られた環境での運動耐容能テストの一手法として利用できる可能性を示唆しました。

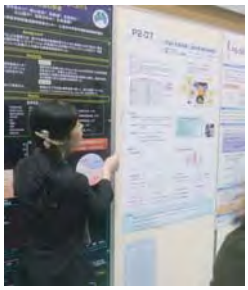
『運動中における音楽がＣＯＰＤ患者の自覚症状に与える影響』　理学療法士　新貝 和也

ＣＯＰＤ患者さんの運動アドヒアランスを高めるために音楽の有用性が示されているものの、音楽がＣＯＰＤ患者さんの運動中の自覚症状に与える影響については明確になっていないため今回の検討を行いました。

安定期の男性ＣＯＰＤ患者さん１０人を対象に、定常負荷自転車エルゴメーター運動を音楽聴取有・無で実施、呼吸困難感・下肢疲労感を運動中と運動後に経時的に測定して評価・解析しました。（運動時は患者さんの好む音楽を聴いていただき、『上を向いて歩こう』が一番評判がよかったです）

結果として、呼吸困難感･下肢疲労感は運動開始１５分後から運動終了後数分にかけて音楽を聴いた方が有意に低い値を示し、また、呼吸困難感・下肢疲労感共に運動時間の経過とともに音楽聴取の有無による差が開きました。このことから、運動中に音楽を聴くことはＣＯＰＤ患者さんの苦しさや疲れの自覚症状を軽減することができ、さらに長時間の運動でより効果的であることが示されました。

『呼吸不全食の導入：食材費と満足度調査（ポスター発表）』　管理栄養士　宗 まりこ



Ｈ２４年４月より呼吸不全食の導入を行いました。今回、呼吸不全食導入による変化（食材費、食種別の食材費、満足度）を検討しました。　呼吸不全食を必要とする入院患者さん３４人を対象に、呼吸不全食導入から前後１ヶ月間に嗜好調査を２回実施しました。その変化として食材費は上がりましたが満足度は少し下がるという結果になってしまいました。

病院における給食の目的は栄養の提供だけでなく教材や生活の潤いとしての役割もあります。今後おいしい満足度の高い食事の提供を行っていくには、呼吸不全食としての位置付けをしっかりするとともに、治療食としての確立も必要だと考えます。

日本呼吸ケアリハビリテーション学会 理事に選出されました

このたび、津田院長が日本呼吸ケアリハビリテーション学会の理事に選出されました。全国で１７名、九州地区では３名の理事の先生方がおられます。先生方と協力して、呼吸器疾患の患者さん・ご家族がより良いケアを受けられるように頑張っていきたいと考えております。

【 日本呼吸ケアリハビリテーション学会の意義 】

呼吸器疾患のケアには医師だけでなく、看護師、理学療法士、管理栄養士、検査技師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、また、呼吸器の専門の知識を持った事務職などによるチームワークが必要です。このような職種が集い、より良い医療を提供していこうとするのがこの学会です。

第１７回 北九州呼吸ケア研究会

代表世話人の市立門司病院
廣瀬 宣之先生のごあいさつ

若林 律子 先生
「ＣＯＰＤ患者さんの
セルフマネジメント教育」

植木 純 教授
「新しい呼吸リハビリ
テーションの考え方と実際
～運動療法マニュアル改訂第２版～」

１０月２０日、北九州芸術劇場ホールにて第１７回北九州呼吸ケア研究会が開催され、満席に近い医療関係者にお越しいただきました。

教育講演では東海大学健康科学部看護学科の若林 律子先生が慢性呼吸器疾患の患者さんのセルフマネジメント能力を上げるためにどのような教育・ケア・環境を提供すればよいのかについてお話いただきました。

また、特別講演では順天堂大学大学院医療看護学研究科の植木 純教授より「呼吸リハビリテーションマニュアル」改訂第２版の上梓に伴い、初版（2003 年）から現代に至るまでに新たに加わった呼吸リハの運動療法概念や実践方法、また現行の診療報酬を網羅するようＣＯＰＤ以外の呼吸器関連疾患を解説に追加したことなど、今後の運動療法を中核とした呼吸リハのさらなる普及に向けたポイントをお話いただきました。

講演終了後の懇親会では、各病院の先生方や医療スタッフを交えてこれからの呼吸ケアについて考える貴重な時間を共有できたのではないかと思います。

第９回 北九州下関睡眠呼吸障害研究会

１１月８日、商工貿易会館にて第９回北九州下関睡眠呼吸障害研究会が開催されました。

岩手医科大学医学部睡眠医療学科の櫻井 滋教授をお招きし、ＣＰＡＰ患者さんが治療を続けられない原因や初期の治療介入・治療機器の選択の重要性、また患者さんのＣＰＡＰアドヒーランスを向上させるためにどういったアプローチが必要になるのかを「ＣＰＡＰ療法を続けるということ～睡眠行動医学的視点から～」というテーマでご講演いただきました。

また、当院から森槌検査技師が「ＡｕｔｏＣＰＡＰ※を過信しない～タイトレーションの重要性～」を発表し、無呼吸治療器の主流であるオートＣＰＡＰの使用に際して機器任せの安易な設定ではエラーが起こることもあり、患者さんに適した機器の圧の調整・確認検査（タイトレーション）をきちんと行うことの重要性について提言しました。

この研究会も次回、節目ともなる１０回目を迎えます。睡眠呼吸障害についての様々な情報を得る良い機会となりますので、今後も多くのご参加をお待ちしております。

岩手医科大学
医学部睡眠医療学科
櫻井 滋 教授

森槌 康貴 検査技師

※ＡｕｔｏＣＰＡＰとは気道の閉塞具合に合わせて自動的に空気を送る圧力が変動する治療機器です

第６９回 日本呼吸器学会･結核病学会秋季学会にて受賞

１１月１６～１７日に北九州国際会議場にて産業医科大学呼吸器内科学教授の迎 寛先生が会長を務められた第６９回日本呼吸器学会･結核病学会九州支部学術講演会が開催され、参加者も５００名を超え盛大な学会となりました。

当院からも、森槌 康貴検査技師が「睡眠検査センターにおける検査件数と対象疾患の変化」を、山口 清香理学療法士が「ＣＯＰＤ患者におけるＮＲＡＤＬと６分間歩行距離の関連性」をそれぞれ発表いたしました。

また、学会発表者の中で山口理学療法士が育成賞をいただくことができました。これを励みに今後も充実した呼吸リハの提供と自己研鑽を重ねて参りたいと思います。

（左より）座長の今岡先生、山口 PT、津田院長
山口 PT 受賞おめでとうございます！

プロレスラー高山さんと喘息･ＣＯＰＤ講演を行いました

高山さんは身長が１９６センチという長身レスラーなので津田院長も小さく感じます

１２月６日、鳥取県の米子市にて喘息とＣＯＰＤに関する講演会が開催されました。鳥取大学医学部 清水 英治教授の司会で津田院長が「高齢者喘息とＣＯＰＤのトータルケア」というテーマでお話致しました。

コメンテーターとしてプロレスラーの高山 義廣さんも参加されていて、その一見怖そうなイメージとは反対に、幼少期からの喘息経験の大変さをお話されていました。その姿は可愛い患者さんのようでした。お話の中で吸入ステロイドの使用が面倒であるということも聞き、患者さんに対する吸入ステロイドをさらに普及するためにこれまで以上の努力が必要だということを痛感致しました。

近隣診療所の先生方との連携

当院では呼吸器相談会として２ヶ月に１度、近隣の先生方（呼吸器を専門とされない）に気になる胸部Ｘ線写真を持ち寄ってもらって開催しています。

大塚製薬さんの協賛のもと、１５年の長きに渡るこの会も８０回目を超え、顔の見える診療連携ができています。この会を起点に、市中開業医さんのＣＯＰＤ疫学調査（福岡ＣＯＰＤ研究会）などがなされ、有意義な会となっています。

今後もこの呼吸器相談会が地域医療連携の場としてさらに充実したものとなるよう、多くの先生方の参加をお待ちしています。

先生方が持ち寄った胸部Ｘ線フィルムで症例検討している様子
（４階 図書ラウンジ）

在宅酸素友の会「ひまわり」バスハイク報告

バスは行く！

第28◎ー佐賀唐津のたびー

2012年11月12日
参加者：23名　　スタッフ：13名

澄んだ秋空の下、賑やかなバスが今回向かった先は佐賀県唐津市にある曳山展示場です。佐賀県を代表的する祭り行事「唐津くんち」の主役になる巨大な曳山１４体が展示保管されていて、その重厚さは圧巻の一言でした。その感動さめやらぬまま玄海ロイヤルホテルでの昼食タイムを迎え、豪勢な御膳と気の知れた仲間で食べて歌って笑顔の絶えない１日になりました。

在宅酸素の生活は大変ですが、このような旅行を日々の活力にして一緒に頑張っていきましょう！

病棟 X'mas 会

昨年のクリスマスは雪がチラつくホワイトクリスマスになり、病棟でも穏やかにクリスマス会が催されました。ゲストに『癒音工房～ ionkoubou ～（奥森 響子さん、阿萬 絵美さん、椋尾 奈穂さん）』の３人をお招きし、フルート・ピアノ・パーカッションによる三重奏を披露していただきました。

恒例行事ではありますが、常に患者さんの元気が出るような非日常的な新しい催し物を計画しています。これから２０年、３０年と変わらぬ気持ちを忘れずに続けて参りたいと思います。

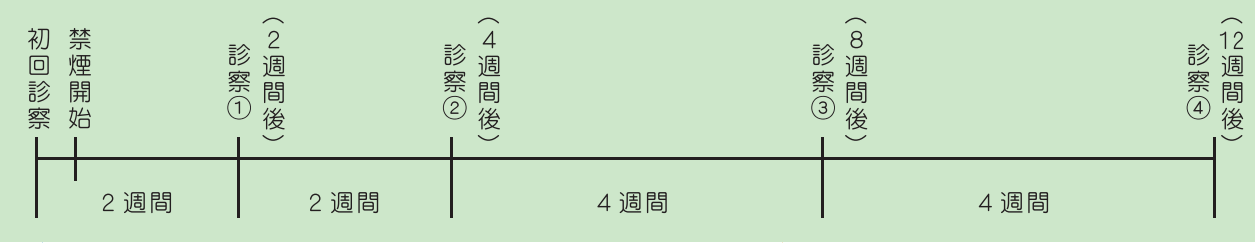
恵友会忘年会

２０１２年の忘年会も皆さん美味しい食事を囲んで優雅なひとときを過ごしました。
その一方で部署別の出し物では変装した津田院長が飛び入り参加し大変盛り上がりました♪
２０１３年も気持ちを新たに恵友会号は荒波を乗り越え航海していく所存です。

禁煙外来患者さん７００名を超えました

Ｈ18年６月より禁煙治療の保険適応が開始になり、当院でもこれまでに約７００名の患者さんが禁煙を始め、約７割の方が成功しています。タバコは害あって一利なしとも言われています。ご自分のため・周囲の人ためにも禁煙をおすすめします。

保険で認められている通院回数は初診を含めて５回、期間は３ヶ月（12週間）で下図のような流れで進めていきます。



初回診察時

- 禁煙状況等のチェック
- 呼気一酸化炭素濃度検査
- 禁煙開始日を決めます
- 禁煙治療薬の選択と処方

診察①～④

- 禁煙状況や離脱症状がないか
- 呼気一酸化炭素濃度検査

費用は、当院の場合、３割負担の方で３ヶ月分の診察料とお薬代（飲み薬や貼り薬）で２万円前後、１割負担の場合で７千円前後となっています。

３ヶ月間のタバコ代（２０本／日として）４１０円×３０日×３ヶ月間＝約３万７千円と比べると、とても安いことがわかりますね。

当院で治療している患者さんから「禁煙から３日目が１番辛い」とよく耳にします。当院では開始３日目に看護師から禁煙コールをさせていただいたり、ソーシャルワーカーの末松が禁煙専門指導者としてアドバイスも行っています。困ったこと等ございましたら何でもお気軽にご相談ください。

トピック　当院の看護師が釣りgirlとして紹介されました！

ＦＢＳ福岡放送『ＮＥＷＳ５ちゃん』で放映されている特集コーナーにおいて当院看護師の恒成 由佳が職場で働く釣りガールとして出演しました♪

看護業務をテキパキと行う傍ら、休日には趣味の釣りを楽しむこのオンとオフの切り替えは良い気分転換になっています。メリハリが大切ですね。
これからも仕事に釣りに奮闘してください☆☆☆

外来担当のご案内

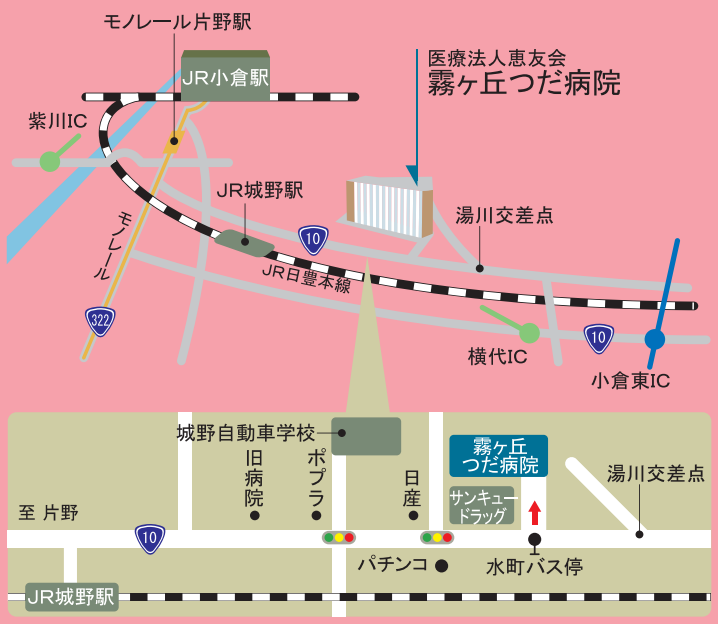
【外来担当表】

2012. 9. 26

下記の担当医は、都合により変更になる場合がございます。その場合は他の医師が診察いたしますのでご了承ください。

	午前（9：00～12：00） 受付は11：30まで（初診は11：00まで）	午後（14：00～17：00） 受付は16：30まで（初診は16：00まで）	（17：30～20：00） 受付は19：30まで
月	津田 徹 自見 勇郎（～10：30） 増井 太朗（10：30～）	一木 克之	
火	津田 徹 一木 克之 良永 倫子（10：30～）	リウマチ外来 加茂 洋志 自見 勇郎	
水	午前外来休診	平井 裕子［九大呼吸器科］ 加藤 香織 廣澤 誠［産医大］	一般内科・呼吸器外来 津田 徹（一木 克之） 一般内科・糖尿外来 田中 誠一［九州労災病院］
木	津田 徹 自見 勇郎 良永 倫子 佃屋 剛［第３木曜］	リウマチ外来 加茂 洋志 自見 勇郎	（水曜日の夜間外来は再来患者さんのみの診療となります。ただし、睡眠時無呼吸・禁煙外来の初診は18時半まで受け付けています。）
金	津田 徹 一木 克之 加藤 香織（10：30～）	今岡 治樹［久大１内科］	
土	自見 勇郎／徳山 晋［隔週］ 加藤 香織／今岡 治樹［交替］ 脳血管外来 石束 隆男［第２土曜］ 睡眠歯科外来 津田 緩子［月２回：予約制］	（注）院長の外来診療は、予約制となります。	

※月に一度、最初の診察日には保険証を忘れずご持参ください。
※日曜、祝日、土曜午後、水曜午前は休診です。（その他の休診日については、その都度掲示致します）
※睡眠呼吸障害外来の初診は月～土の全診療時間で行っております。
※当院にお掛かかりの方で喘息の発作その他緊急時には、夜間でも電話（952−1304）をかけてご来院ください。



医療法人恵友会
霧ヶ丘つだ病院
ほっとホーム霧ヶ丘
恵友会デイサービスセンター
訪問看護・ヘルパー・ケアプランステーション

発行日　：2013年2月1日
編集発行人：井田 章博
発行所　：医療法人恵友会
〒802-0052
北九州市小倉北区霧ヶ丘３－９－２０
Tel. 093-921-0438　Fax. 093-921-5988
ホームページ：www.k-you.or.jp
メール：info@k-you.or.jp